

国道1号 中汐田交差点の対策効果

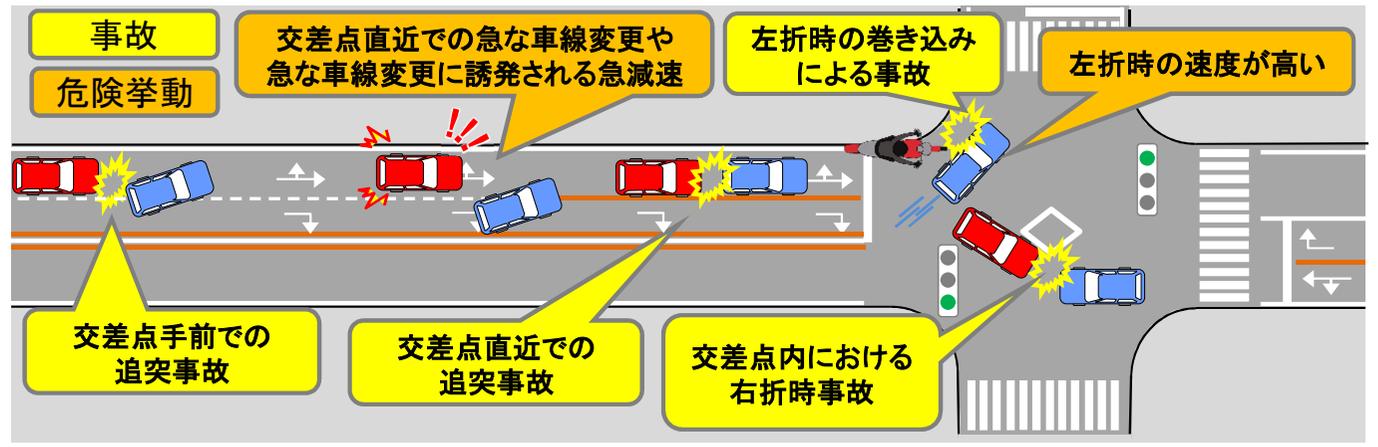
(1) 事故発生状況

- 国道1号 中汐田交差点では、交差点手前および直近での追突事故や、交差点内での右左折時の事故が発生。
- H30年6月に「路面標示「追突注意」」「減速路面標示」「右折レーンのカラー化」「交差点コンパクト化(隅切り部の縮小、停止線の前出し)」の対策を実施。

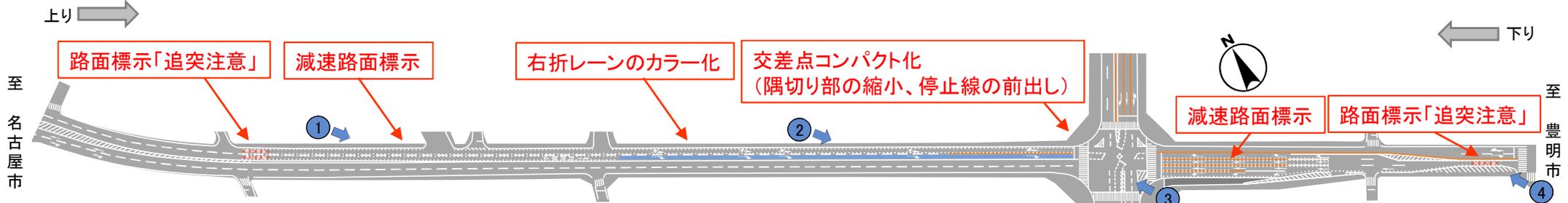
[位置図]



[中汐田交差点で発生していた事故や危険挙動]



[対策内容]



国道1号 中汐田交差点の対策効果

(2) 交通挙動変化の分析

- 右折レーンのカラー化により、交差点手前における車線変更が増加し、交差点直近における急な車線変更が減少。
- 交差点コンパクト化により、左折時の距離が短くなり、左折時の速度が低下。
- 注意喚起や交差点コンパクト化、右折レーンのカラー化などにより、急ブレーキ発生率が減少。

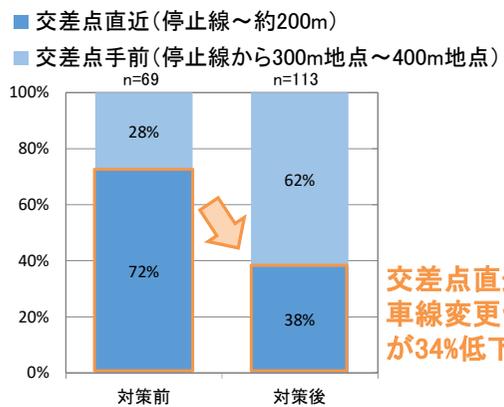
[観測位置]



(調査日)
 対策前: H28年1月13日(水) 13:00~16:00
 対策後: H31年1月 9日(水) 13:00~16:00

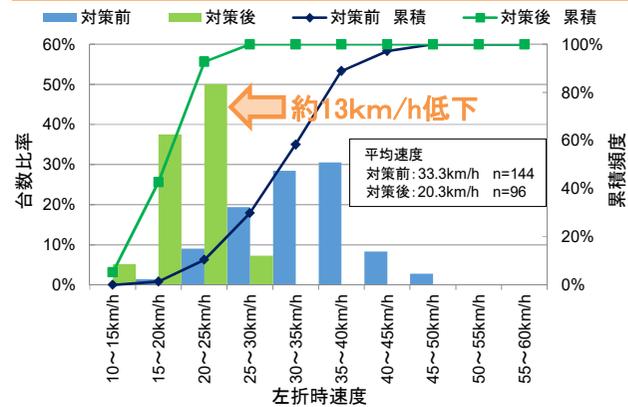
交通挙動による効果

■右折レーンのカラー化により余裕をもった車線変更に対策により右折レーンの存在が明確になり、交差点直近の車線変更割合が72%から38%に低下しました。



交差点直近の車線変更台数が34%低下

■交差点コンパクト化により左折速度が低下対策により左折時の距離が短くなり、左折時の走行速度が33km/hから20km/hに低下しました。

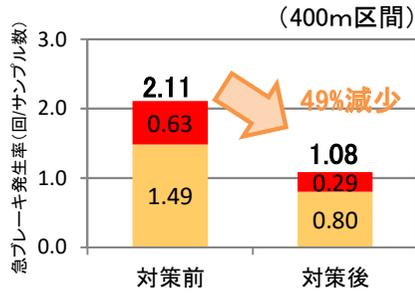


約13km/h低下

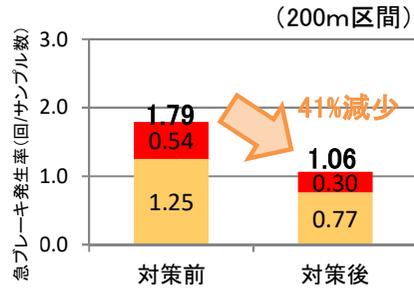
ビックデータに基づく効果

■注意喚起や交差点コンパクト化、右折レーンのカラー化などにより、急ブレーキ発生率が減少対策により、急ブレーキの発生率が上りでは49%、下りでは41%減少しました。

[上り]



[下り]



■ -0.25G ~ -0.4G ■ -0.4G ~